

6月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和6年5月31日（金）15時30分～16時30分
- 2 場所 本庁舎2階 正庁
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ④ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑤ NHK 南相馬報道室（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑥ 福島放送 いわき支社（南相馬記者クラブ準加盟社）

計 6 社

< 市側 >

- ・市長・総務部長
(テレビ会議)
- ・新田副市長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・市民生活部長
- ・健康福祉部長・こども未来部長・商工観光部長
- ・農林水産部長・農林水産部政策担当理事・建設部長
- ・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 15 人

- (司会進行) 秘書課長
- (会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、相馬野馬追の開催についてです。

5月25日、26日、27日の3日間、令和6年相馬野馬追が開催されました。こちらにつきましては、市政報告の後に執行委員長としてご報告いたします。

次に、市立総合病院の周産期医療協力施設キックオフミーティングについてです。

令和6年4月施行の「第8次福島県医療計画」において、南相馬市立総合病院が周産期医療協力施設に位置づけられました。

市立総合病院が周産期医療協力施設としての準備を開始したことを院内外に示すため、5月27日にキックオフミーティングを開催し、福島県立医科大学の産科婦人科学講座の藤森敬也様に「福島県内の周産期医療－産婦人科の現状－について」、また周産期・小児地域医療支援講座の細谷光亮様に「福島県全域および相双地区における周産期・小児医療体制について」ご講演いただきました。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、市議会定例会についてです。

6月10日から、第2回市議会定例会を開催いたします。

今回の定例会においては、補正予算など議案18件、報告10件の提出を予定しています。

詳細はのちほど総務部長より説明いたします。

最後になりますが、災害への備えについて触れたいと思います。

これから梅雨の時期を迎え、風水害や土砂災害への備えが必要となります。このことから市では、広報みなみそうま6月1日号で災害への備えについて周知する予定としています。

また、市では現在、防災行政無線の新デジタル波対応を進めており、新しい戸別受信機を6月2日から順次、地域ごとに配布していく計画です。本市に住民登録のある全世帯が対象で、市民の皆様には準備が整い次第、配布日程や受取場所を記載したハガキを送付しますので、必ずお受け取りください。

災害時に速やかに自分や家族など大切な人の命を守る行動を取るためには、平時から、避難行動の確認や家庭での備蓄、防災情報を入手する手段の確保などが大切です。防災メールへの登録や市ホームページ、令和5年度に配布した防災マップを確認するなど、災害に備えていただきたいと思います。

市政報告は以上となります。

【相馬野馬追の開催報告】

改めて、相馬野馬追執行委員長として、相馬野馬追の開催についてご報告いたします。

はじめに少しお時間いただきまして、南相馬市でこの度、法被を新調しましたのでこちらをお披露目しながら報告させていただきます。市の各部署で広報用に法被を使っていましたが、この度統一した法被を着用することにいたしました。朝倉雄三先生の絵をお借りして、相馬野馬追にちなんだ法被にいたしました。こちらを着用してご報告させていただきます。

5月開催となった令和6年相馬野馬追は、市内外から多くの観光客の皆様にお越しいただき、盛況のうちに終えることができました。

開催実績を申し上げますと、出場騎馬数は前年から21騎増加の382騎、観光客の入込数は、前年より9,100人増加の13万500人となりました。

また、今年も市内の高校生に伝統文化の継承をお手伝いいただきました。

相馬農業高校とは相馬野馬追をはじめとする内容で連携協定の締結を予定しており、その第一弾として相馬農業高校馬術部の皆様に、私が騎乗する馬の綱を引き、お行列のスムーズな進行をサポートいただく仲間（ちゅうげん）を務めていただきました。原町高校放送部の皆様には、今年も沿道や祭場地でアナウンスにご協力をいただきました。

また、前年は人馬ともに熱中症などによる救護対応が多かったですが、今年は救護対応が大幅に減少し、救護所での対応は前年から56件減の39件、騎馬の救護も前年から74件減となる38件となりました。今後検証等は必要となりますが、日程変更により、一定程度、人馬への身体負担が軽減される結果となったと感じており、胸をなでおろしているところです。

3日間にわたる各行事を滞りなく終えることができましたのは、市民の皆様をはじめ、三社五郷騎馬会、執行委員会と保存会の皆様のご尽力のおかげです。

この場をお借りして感謝申し上げます。

【質疑応答】

質問1:

相馬野馬追は開催時期を約2カ月前倒しして初めての開催となりましたが、開催を振り返った所感を教えてください。また、取材中「涼しかった」という声を何度も聞きましたが、市長ご自身はどのように感じていらっしゃいましたか。

回答1：市長

一言で申し上げますと、ほっといたしました。

相馬野馬追を継承するため、未来へ繋ぐために暑さ対策をしなければならないということで、私たちは日程変更という選択をしました。結果として暑さによる騎馬・観客の救護数は減少しており、ほっとしたというのが正直なところです。

何より、さまざまな関係者の方が苦労しました。日程を2カ月前倒しするのは初めてのことで、神社や騎馬会、宵祭りの関係者の皆様にさまざまな点で調整いただき、大きなトラブルもなく終えることができました。関係者の皆様に本当に感謝申し上げます。

今年、去年とほぼ同じ鎧を着て出場しましたが、朝着替えている時から全く違いました。朝は5時ぐらいから着替えるのですが、これまではエアコンで冷房をつけながら着替えていました。今年は、肌に当たる鎧の金具の部分が冷たく、朝のうちは寒く感じたぐらいです。出発から気候が全く違うと感じましたし、初日と2日目も爽やかな気候のもとで開催させていただきました。

観覧いただいた方も昨年より多かったように感じました。去年は暑い中、無理をして見ている方もいましたが、昨年とはだいぶ異なる気候でご観覧いただきました。馬上から見ても気持ちよく開催させていただきました。

質問2:

取材中、農作業や学校行事と同じ時期に相馬野馬追が重なって大変だったという話を聞きました。把握していらっしゃる課題があればその課題と、伝統継承に向けて課題にどのように対応するのか教えてください。

回答2：市長

農業や学校の関係は、おっしゃる通りです。田植えが終わらないところもあったと聞きました。工事の影響で田んぼに水が来ない、あるいは田植えが直前になるような方も一部いらっしゃって、全ての方に影響が出ないというのは難しいかと思えます。

学校関係では、大きな日程等は事前に調整がつかしました。特に小高の小中学校は

休校にしていただき、感謝申し上げます。おだか認定こども園の子どもたちには、野馬懸を間近で観覧してもらいました。

神社の神輿を担ぐ担ぎ手などの手配についても、民間の方が事業所単位でご協力くださいました。高校生の皆さんにもさまざまな点でご協力いただき、結果として何とか開催できたと考えています。

課題としては、安全対策を丁寧にやらなければならないと考えています。今年、観客が怪我をしたケースが発生しました。また、たくさんの方にお越しいただいた影響で通行路が狭くなり、馬と人が通る場所をしっかりと分けないと危ないと感じるケースがありました。安全対策をしっかりとやらなければならないと感じました。

もう一つは、トイレに行列ができたという声を頂きました。出場する騎馬武者のためのトイレや、来場者のためのトイレについて、次年度に向けてより丁寧に対応していきたいと思います。

加えて、農業や学校への影響、各区での行事への影響などについて調査を行い、どのような対応が必要なのか検討してまいります。

質問 3:

骨折などの重傷事故は何件、把握していらっしゃいますか。

回答 3: 市長

2件です。

質問 4:

女性騎馬武者の出場条件の緩和に関する議論が、執行委員会の総会でも上がっていたと思います。

執行委員長として、今後の議論の進め方や見解をお伺いできればと思います。

回答 4: 市長

執行委員会の席上でも「議論をしてほしい」「検討してほしい」という声があり、「執行委員会として検討いたします」と報告申し上げた通りです。私個人の意見等を申し上げるにはタイミングがやや早いと考えています。

まず私たちには、相馬野馬追を未来へ繋いでいく責務があります。さまざまなルールや歴史がありますが「未来へつなぐ」という観点から、開催日程の変更のように、新しい風を入れていくことも必要ではないかと感じたところです。

多くの皆さんも同じことを感じていると思いますので、関係者の皆様と今後話し合っていきたいと考えています。

質問 5:

国会の参議院で地方自治法の改正案が審議されています。国から地方への指示権を拡大する場合は、パンデミックや大規模な自然災害などのケースを想定しているようです。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故という大規模な災害を経験した立場から、考えをお聞かせください。

回答 5: 市長

震災時、本当に経験したことの少ないことばかりで、全国の個人や自治体から支援を受けました。時間の経過とともに国の制度ができあがり、国の災害対応の枠組み

の中で対応できた状況だったと考えています。国の支援に加えて、自治体同士のご支援が大変大きかったです。

これらを踏まえると、有事の際に国がしっかり対応することは必要だと思いますし、そうした意味での改正と理解しております。その一方で、自治体同士だからこそできることもありますし、地域ごとにやれることもあります。地域の実情や地域でできることなどを踏まえていただくなど、国と地域の両方から捉えた議論が必要かと思います。

改正に向けた議論でもさまざまな意見が出ていると理解しています。改正案が衆議院を通過する中で地方への配慮を求める声も出たようですので、議論を通じて、いい制度が出来上がっていくことを望みます。

質問 6:

相馬野馬追の出場騎馬数 382 騎は、2022 年から 2 年連続で増加傾向にあると思います。新型コロナウイルス感染症の流行前の 400 騎にだいぶ近付いてきていますが、女性騎馬の出場条件もさることながら、全体的に騎馬数をどのように増やしていくかについて、どのようにお考えでしょうか。

回答 6：市長

騎馬会の皆さんと議論すると、さまざまな考えをお持ちの方がいらっしゃるの確かです。数の問題だけではなく、相馬の武士（もののふ）として厳しく執行することや、一人一人がしっかりと訓練をして出場することが大切だと考えている方もいらっしゃいます。

執行委員長の立場としては、新型コロナウイルス感染症の流行によって一気に出場騎馬数が落ち込みましたので、まずはコロナ前の 400 騎超を目指して出場者を受け入れる裾野を広げることが必要と考えています。

質問 7:

日程変更の影響はこれから調査を行うとのことですが、企業や団体が相馬野馬追に参加しやすくなるような対策は検討していらっしゃいますか。

回答 7：市長

以前の事例ですと、会社として騎馬や鎧などを準備することで、出場する職員が変わっても会社として継続して出場できるようにする会社もありました。あぶくま信用金庫様のように、社会貢献の一環として、神輿の担ぎ手や野馬追の里キャンペーンスタッフとしてご協力いただく企業もあります。また、協定を結ぶ予定の相馬農業高校も、今後ご協力いただけると思います。大変ありがたく思っております。

感謝の気持ちを示したいと思い、今年は列帳の裏面に、協賛いただいた事業所に加えて相馬三社のお供にご協力いただいた団体の皆様を記載させていただきました。このようなものを増やしていければと考えています。

質問 8:

相馬野馬追の観覧者数は去年より大幅に増加していますが、日程変更の周知に力を入れた結果か、それとも気候が涼しくなったことで増えたのか、市長はどのようにお考えでしょうか。

回答8：市長

正直、はっきりと申し上げるのが難しいところです。

日程変更そのものがコマーシャルになりましたので、そのニュースをきっかけに相馬野馬追の認知度が上がったようです。この他でよく聞いたのは「涼しい時期に開催するから久しぶりに行ってみようかな」という声でした。

統計は取っていませんが、もう一つ特徴的だと感じたことがありました。従来は神旗争奪戦が何発か終わると途中でお帰りになる方も結構いらっしゃいました。帰りの道路が混雑するからという理由もありますが、暑くて大変だから帰ったという方もいらっしゃったようです。

今年は全16発終わってもかなりの観客が残っており「観覧しやすかった」「気候が涼しく、気持ち良く見れました」と、最後まで観覧してくださった方が結構いらっしゃいましたので、嬉しく感じました。

以上